

関の工場参観日

参加事業者向け **MANUAL BOOK** ver.2

SEKI, GIFU

SEKI FACTORY OPEN DAY IS AN EVENT YOU CAN SEE THE TECHNIQUE, HEAR THE SOUND,
AND FEEL THE CRAFTSMANSHIP OF A LOT OF FACTORIES IN SEKI.
YOU WILL BE PROUDER OF SEKI'S QUALITY AFTER THESE 3 DAYS. WHY DON'T YOU JOIN US?

CONTENTS

01	関の工場参観日とは？	2	06	データから見る関の工場参観日	22
02	工場見学の例	8	07	参加事業所向けQ&A	23
03	5つのポイント	12	08	年間スケジュール	25
04	当日のコンテンツ	20	09	関の工場参観日 実行委員会組織図	26
05	キャリア教育事業・広報	21			

01

関の工場参観日とは？

主催 関市

企画運営 関の工場参観日実行委員会
(関市内のものづくりに携わる事業者、関市役所など)

「関の工場参観日」は2014年にスタートした、岐阜県関市のものづくりの現場を見学・体験できるイベントです。関市は日本一の刃物の産地として知られ、近年は自動車、医療、精密機械などに関わるさまざまな職人技を有する企業が集まる「ものづくりのまち」として発展してきました。しかし、従業員の高齢化、職人の後継者不足、技術の継承が深刻な地域課題となっています。そこで、関市の誇る事業所の高い技術力や高品質な製品を市民はじめ多くの人々に直に体感していただき、また個性ある経営者や職人と接しながら製品の知識を深めることで、地元企業の魅力を再認識してもらおうとともに、まちに誇りや愛着を持つ心を育む機会として「関の工場参観日」を開催しています。



VISION MAP

関の工場参観日では「地域全体に好循環を生み出す」ことを「VISION」に掲げ、その実現のために「MISSION」「VALUE」「PURPOSE」に基づいて運営をしています。

VISION

[目指す理想の姿]

地域全体に
好循環を生み出す

MISSION

[工場参観日の役割]

職人プライドの向上
関の工場のファンづくり

VALUE

[工場参観日大切にしていること]

みんなが主役、みんなで協力

PURPOSE

[工場参観日に参加する企業の目的]

各企業の発展

VISION

[目指す理想の姿]

地域全体に好循環を生み出す

企業の活性化は、関市の活性化につながり、地域の知名度が向上し来訪者が増えると、企業も活性化します。このように、地域の活性と企業の活性は互いに影響を与え合います。「地域全体に好循環を生み出す」ことが関の工場参観日の「目指す理想の姿」です。

地域の活性化

企業の発展

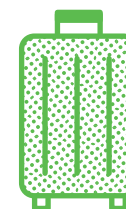
移住・定住

- 住みたい・働きたいまちになる
- 若者の移住促進
- 交流人口の増加



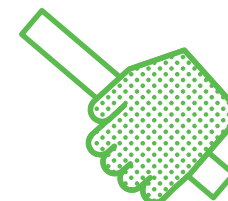
観光

- 飲食や観光地との連携
- 「産業観光」の確立



後継者・担い手

- 子どもたちが将来関市で働きたい、ものづくりに携わりたいと思う



シビックプライド

- 地元の魅力再発見
- 市民が関市を自慢したくなる
- ものづくりのまちとしての関市に誇りと愛着を持ってもらう



MISSION

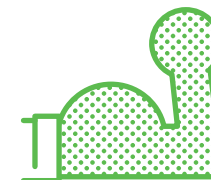
[工場参観日の役割]

職人プライドの向上 関の工場のファンづくり

工場を開放し一般の人に見学してもらったり、ワークショップを通してものづくりを体験してもらうことで、工場で働く職人やスタッフが自分の仕事に誇りを持ち「職人プライド」が向上すること、そして関の工場や地場産業のファンを増やすことが「工場参観日の役割」です。

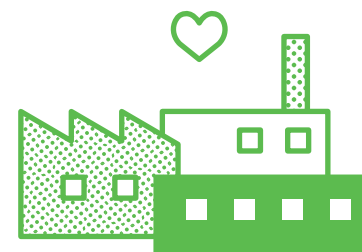
職人プライドの向上

- 職人としての誇りを持つ
- 働く人が自分の仕事に誇りを持つ
- 働き甲斐の向上



関の工場のファンづくり

- ものづくりに愛着を感じてもらう
- ワークショップでものづくりを体験してもらう
- 工場見学でものづくりを体感してもらう
- 職人はかっこいいと感じてもらう
- クラフトマンシップを知ってもらう



VALUE

[工場参観日が大切にしていること]

みんなが主役、みんなで協力

工場参観日には、関市全体を盛り上げる意志のある工場同士が力を合わせることで、1社ではできないことを実現していきます。また、目先の効果だけでなく10年、20年先の中長期的視点を持って、イベントに取り組みます。

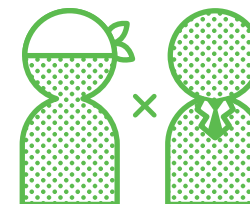
オンリーワンの技術や製品に誇りを持つ

- 自社の魅力に自信を持って使い手に伝える
- 自分たちの声で届ける



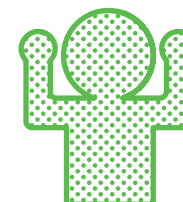
1社でできないことをみんなで実現

- 企業同士の横のつながりで発信力向上
- 企業同士がコラボレーションしたオリジナルコンテンツ



未来を見据えて関市全体を盛り上げる

- イベントを中長期的に捉える
- 1社1社が主体性を持って参加する



PURPOSE

[工場参観日に参加する企業の目的]

各企業の発展

工場参観日に参加企業として関わることで、さまざまな観点から企業の発展が期待できます。いいものづくりをPRすることは自社のファンづくりにつながり、後継者の育成や新たな人材獲得、企業間交流などさまざまな効果があります。

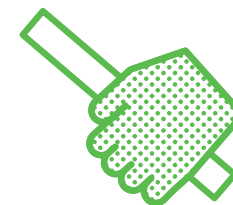
自社のファンづくり

- いいものづくりをPR
- ものづくりに愛着を感じてもらう
- 働く人をカッコいいと思ってもらう



後継者・担い手

- 工場見学の説明や実演による人材育成
- ここで働きたいという人との出会いが採用につながる
- 働く人が自社に誇りを持てるようになる



企業価値UP・魅力UP

- 情報発信力の向上
- ここでつくられたものが欲しいと思ってもらう
- 技術のPRが新しい仕事につながる
- 企業間交流
- 自社商品開発のきっかけになる
- 売上UP



02

工場見学の例

\ START /

1 お出迎え



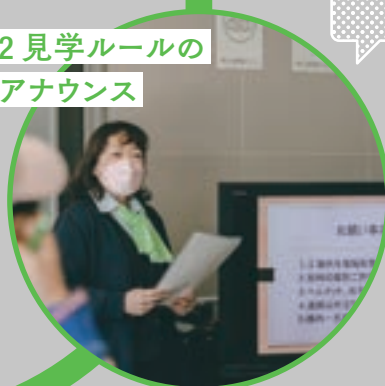
参加者を会社全体でおもてなしの気持ちでお出迎え。

3 会社紹介



工場の歴史やものづくりのストーリーを紹介。スライドを使用したり簡単な資料を準備しておくとうわかりやすい！

2 見学ルールのアナウンス



見学の前に、立ち入り禁止区域、NG行為など見学のルールや注意点を伝える。

4 工場見学



ものづくりの工程に沿って、工場内を案内。安全面の注意喚起も忘れずに！

5 ものづくり体験



職人といっしょにものづくり体験ができるワークショップ。

6 アンケート 職人への手紙



来年の運営に活かすためアンケートと職人への手紙を記入してもらい、回収する。

/ FINISH \

事例紹介

〔工場見学〕株式会社カクダイ 岐阜工場

6回目 水栓金具

某世界旅行テレビ番組や某アニメ映画のパロディ風ツアー、工場見学の合間のクイズコーナー、関牛乳とコラボした牛乳が出る蛇口の開発など、毎年エンターテインメント性の高いプログラムを企画しています。

〔ワークショップ〕株式会社杉山製作所

10回目 鉄家具

2023年は4種類のワークショップを実施。うち一つが、1日1名限定、参加費20,000円の「鉄と杉古材のツール製作体験」。職人が専属で付いて指導し、2時間かけて本格的なツールを完成。参加者の満足度の高いものとなりました。



〔工場見学＋ワークショップ〕中央工機株式会社

4回目

金属加工業

ガイドのスタッフを複数人配置し、朝～夕方まで常時工場を開放。同時に複数の組が見学する場合はルートを変えるなど工夫しています。プレス技術を活かしたキーホルダー作り、鋸打ち体験など、工場見学の合間にワークショップも取り入れています。



〔ワークショップ（せきてらすのみで開催）〕株式会社サンクラフト

5回目

調理用刃物

工場見学が難しい企業では、本部会場（せきてらす）でワークショップのみ実施することも可能です。サンクラフトでは、自社製品である子ども向け包丁を使った、子ども向け料理教室を開催しています。



職人への手紙

工場見学やワークショップの参加者が、驚きや感動、感謝を職人たちに伝える「職人への手紙」。工場内に掲示している企業もあり、職人プライドの向上につながっています。

普段あたりまえに使っている物も
それを作る人がいるんだということを改めて
気づき、とてもいい機会をいただきました。
応援しています!! 今日はありがとうございました。

工場内がとても整頓されていて
当社でもこういう姿でありたいなあと
思いました。閉にもこんなロボット
を稼働させて運営している企業さんが
ある事に誇らしい気持ちになりました。

今日はいろいろなしごとがきかいか
見えました。とくにうごかすちゅうりっぷ
たいなまがきかきあもしろくてかっこよ
うです。おしごとがんばってください。

社員の皆さんでもてなして下さる事に
感謝し楽しく見学させていただきました。
働いてみえる方々楽しいのでみんなの
良い活気ある会社だと思いました

社長自ら貴重な時間を使って
説明に頂き感謝しています。
工場見学と言うと、機械が動いて
いるところや、部品の窓こしに仕事と
しているところを見学させて頂く事が多
いと思いますが、今回は非常にわかり
やすく、びわくに説明頂きました。
勉強になりました。ありがとうございました。

案内してくださる方がどなたも笑顔で丁寧で優しく
次の訪問先への時間まで気にして下さり、次回はぜひ、
人間にスポットを当てた参観でまたおじやまいたいと思いました。
工場を見学するのが大人になって初めてでしたので、
また子供の頃と違った目で見られ有意義なひとときでした。

03

5つのポイント

工場見学・ワークショップを実施するにあたり、心掛けるべき5つのポイントが「背景・想い」「製品・技術」「魅せ方」「おもてなし」「安全」です。これらを意識して準備することで、来場者に工場やものづくりについて、より魅力的に伝えることができます。

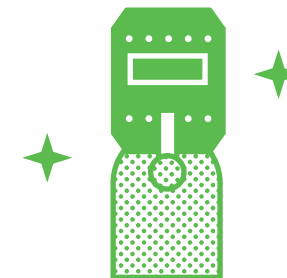
背景・想い

ものづくりの背景や働く人の想いを伝える



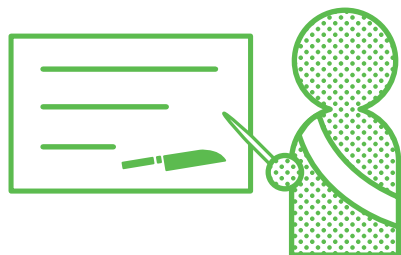
製品・技術

自慢の商品や技術の魅せ方を工夫する



魅せ方

職人を主役にした「解説×体験」



おもてなし

あいさつや笑顔、会社全体で参加者を歓迎する



安全

参加者が安心して見学できる空間づくり



背景・想い

ものづくりの背景や働く人の想いを伝える

- お客さんは素人の方（専門的な用語は避ける）
- 写真を使って短い言葉で
- 会社の想いやものづくりへの想いを伝える



工場の魅力を伝える

工場の魅力は「働く人」「職人の技」「作っている製品」です。工場見学やワークショップでは、その魅力をわかりやすく伝えることが大切。会社の魅力をしっかりと伝えれば「この会社で働きたい!」「この会社でつくられたものが欲しい!」と思うファンが増えていきます。それが働く人のやりがいや誇りとなり、その家族の誇りにもつながります。

お客さんは素人

お客さんは業界のプロではなく、工場やものづくりの知識がない一般の方がほとんど。そんな方が、期間中は1日で何社も工場を回ります（平均3社）。あれもこれもと詰め込みたくなりますが、長時間になりすぎないように工夫しましょう。

会社紹介で、工場見学が面白くなる

工場見学の始めに行う「会社紹介」はとても重要です。「この後見学する工場で働く人たちはこんな想いで働いている」ということを伝えておくと、参加者の見る目が変わります！

おすすめプラン

〔工場見学のみ〕

会社紹介（5分）＋工場見学（20～30分）

* 全体で30分程度が集中しやすい

〔工場見学＋ワークショップ〕

会社紹介（5分）＋工場見学（20～30分）＋ワークショップ（10～20分）

* 全体で1時間以内が楽しんで参加しやすい

〔ワークショップのみ〕

会社紹介（10分）＋ワークショップ（30～60分）

* ワークショップのみの開催であっても、会社のファンになってもらうための会社紹介（魅力を伝えること）を忘れずに！

製品・技術

自慢の商品や技術の魅せ方を工夫する

- いろいろな技術や工程が詰まっていることを紹介する
- 製品や技術はもちろん、材料や道具・機械をさまざまな方法で魅せる



〔製品・技術、工程〕

①材料 ②道具・機械 ③製品

完成品を作っている工場、中間加工を行っている工場がありますが自社で作っているモノ（工程）を見てもらうことが大切です。



〔魅せ方〕

①展示 ②解説 ③体験（WS）

①～③を組み合わせて見てもらう



工場の日常は、お客さんにとっての非日常。
いつもの何気ない作業が、
お客さんの目には新鮮に映ります。

ほとんどの参加者は工場を見るのが初めて。
普段触れられないこと（体験）を楽しみにしています。
だからこそ、工場の中での「いつもの仕事」見てもらうことが大切です。

① 材料

材料はものづくりの原点！刃物材料がどんなものなのか、刃物業者はわかっていても他業種の方は知らないことです。ただ材料が置いてあるだけのところ（倉庫）でも、説明を加えるとわかりやすいです。「お客さんは素人」であることを忘れずに、ものができる過程を見学してもらいましょう。

② 道具・機械

材料を加工する道具や機械にスポットを当て、工場の得意な技術・工程を紹介し、道具を使っているところを見てもらいましょう。加工前と加工後と比較すると、道具や機械の役割がわかりやすくなります。道具や機械を使っているところは工場見学のハイライトです。職人さんの技を真剣に見てもらえます。

③ 製品

工場の技術が詰まった製品を紹介します。一見マニアックでも、工夫次第で面白さが伝わります。技術を見て、体験してから製品は一味違って見えます。工場が初めてのお客さんも、技を見たり説明を聞いてから製品を見ることで感動してもらえるのです。仕掛品（加工前）と製品（加工後）を見てもらうとわかりやすいです。

魅せ方

職人を主役にした「解説×体験」



主役は職人

関の工場参観日では、特に工場で働く人・職人さんにフォーカスを当ててきました。自分たちが気づいていない、職人さんや工場の仕事のかっこよさを引き出すことで、企業や働く人を好きになってもらいましょう。

とことんわかりやすく

お客さんのほとんどは、工場やものづくりに対して知識がありません。当たり前なこと、些細だと思っていることがわからなかったりします。例えば、入り口がどこなのか。駐車場から離れたところに入り口がある工場は、サインや誘導をわかりやすくするなどちょっとした工夫で、ぐっと工場見学をしてもらいやすくなります。

ポジティブな面とネガティブな面を

会社や仕事の説明をするときは、ポジティブな面とネガティブな面、どちらも伝えることをお勧めします。

ポジティブな面としては、仕事への想いや、自信のあるスキルについて。説明しづらい場合は事実（何十年もこの仕事をやっている、不良品を出さないなど）を交えると伝えやすいです。そして、仕事の難しさや過去の失敗談など、ネガティブな面もあえて話してみましょう。良いことだけでなく、マイナスを伝えることでドラマが生まれ、お客さんは共感し、応援したい気持ちになります。

例えば、品質に自信のある工場であれば、あえて不良品を見せます。一見すると、お客さんには何が不良なのかはわかりません。それを見せることで、品質の高さを理解してもらうことができます。



見学者に工程を楽しんでもらう

実際に職人さんが行う工程を体験してもらくと、その技術の高さや、難しさなどの理解度が増します。特別な準備やお金をかける必要はありません。例えば、刃物の切れ味を確かめる検品作業をしてもらおう。職人さんはどんなところに目をつけているのか、実際に参加者に手を動かしてもらい、体感してもらいましょう。

職人さんの人柄を伝える

工場参観日の醍醐味の一つは、職人さんから直接お話を聞くことができること。ものづくりについて熱く語ることでその人柄を知ってもらいましょう。加えて、写真や展示などで職人さんたちの日常が垣間見られるような紹介もあると、ぐっと職人さんを身近に感じることができます。

おもてなし

あいさつや笑顔、会社全体で参加者を歓迎する



元気なあいさつ

参加者が来たら「こんにちは」「いらっしゃいませ」と大きな声であいさつをしてください。まずは、あいさつでおもてなしの姿勢を表しましょう。

一生懸命な説明

スタッフが一生懸命に会社のこと、工程のことを説明する姿勢に来訪者の方はおもてなしを感じます。ポイントは上手に説明することではありません。口下手でも良いので、一生懸命に説明することです。そして、これらを笑顔で行えたら最高です！

会社全体でおもてなし

大事なことは、社長や担当者だけでなく、会社のスタッフ全体で参加者を快くもてなすことの重要性を理解することです。社長や玄関口のスタッフは感じが良かったのに、工場に入ったら職人はあくせく働いてばかりで、「忙しいのに…」という感じで対応されてがっかりしたという声も聞いたことがあります。これでは、せっかく来訪いただいた方にマイナスの印象を与えかねません。会社全体で来訪者をWelcomeできるように、担当者が会社全体におもてなしの心を共有しましょう。

安全

参加者が安心して見学できる空間づくり



立ち入り禁止区域の設定

工場見学では、お客さんの安全が確保されているかも忘れずに確認する必要があります。安全を第一に、安心して見学できる空間づくりを心がけてください。お客さんはどこが危険でどこが安全なのかが全くわかりません。危険なものは機密性の高い場所へ、立ち入り禁止はパイロンなどを使用して視覚的に訴えるようにしましょう。

見学地区から危険物を除く

普段は業務上工場内に置いてある危険物も、見学の動線からは省いておきましょう。お客さんには小さな子どももいます。子どもの目線に立って、危険物が取り除かれているかをチェックしましょう。

工場内にサインを設置

普段見慣れないものがたくさんある工場で、お客さんはいろいろなものに触れてみたくなります。触れてはいけないものや、撮影NGなものは明確にしましょう。あらかじめ工場見学が始まる前に説明し、その上でそれぞれの現場にはタッチ禁止やカメラ禁止マークなどを設置するようにしましょう。サインは参加工場にお配りするので、随時必要なものを活用してください。

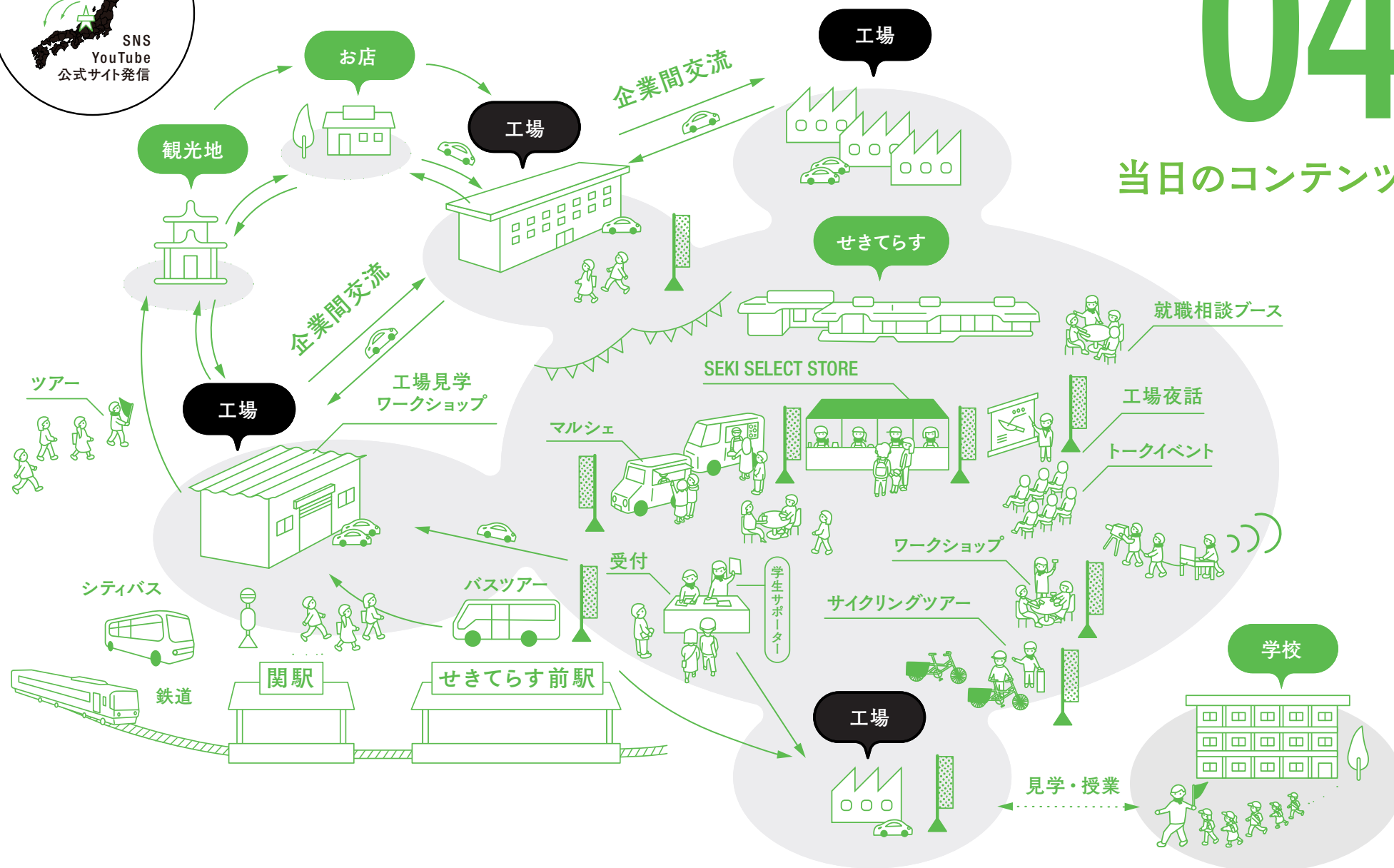
お客様に向けた誘導と声かけを

特に子どもは、興味の赴くままに自由に動き回ります。保護者が説明を聞いている間に走り回る…ということも少なくありません。工場の説明をする引率者のほかに、お客さんを見守るスタッフを配置するなど、2名以上で体制が組めると良いです。



04

当日のコンテンツ



05

キャリア教育事業・広報



キャリア教育事業

将来の関市の産業の担い手となる子どもたちに、地元の産業への理解を深め、工場で働くことに興味を持ってもらうことを目的としてキャリア教育事業に力を入れています。イベントの会期に関わらず、年間を通じて関市内の小中学校の児童・生徒の見学受け入れや、出張工場参観日として出前授業を実施。子どもたちにものづくりの楽しさや関市に受け継がれる産業の魅力を伝えています。

〔2023年のキャリア教育の結果〕

- 工場見学 市内外小中学校 5校（約170人）
- 出張 市内小中学校 2校（約200人）

広報

関の工場参観日では年間を通じた情報発信の取組みを行っています。イベントの会期中だけではなく継続的な情報発信を行うことで、工場やイベントのファンを増やしています。

〔工場夜話〕オンライン配信あり

せきてらすを会場に、参加事業所を中心とした事業所の方をゲストに招いて、普段は聞けない工場の赤裸々なトークを繰り広げるイベントです。

〔クラフトフェア出店〕

2022-2023年度にはより多くの人に知っていただくために、ワークショップや物販でイベントへの出展もしています。

〔LINE〕



〔Instagram〕



〔X〕



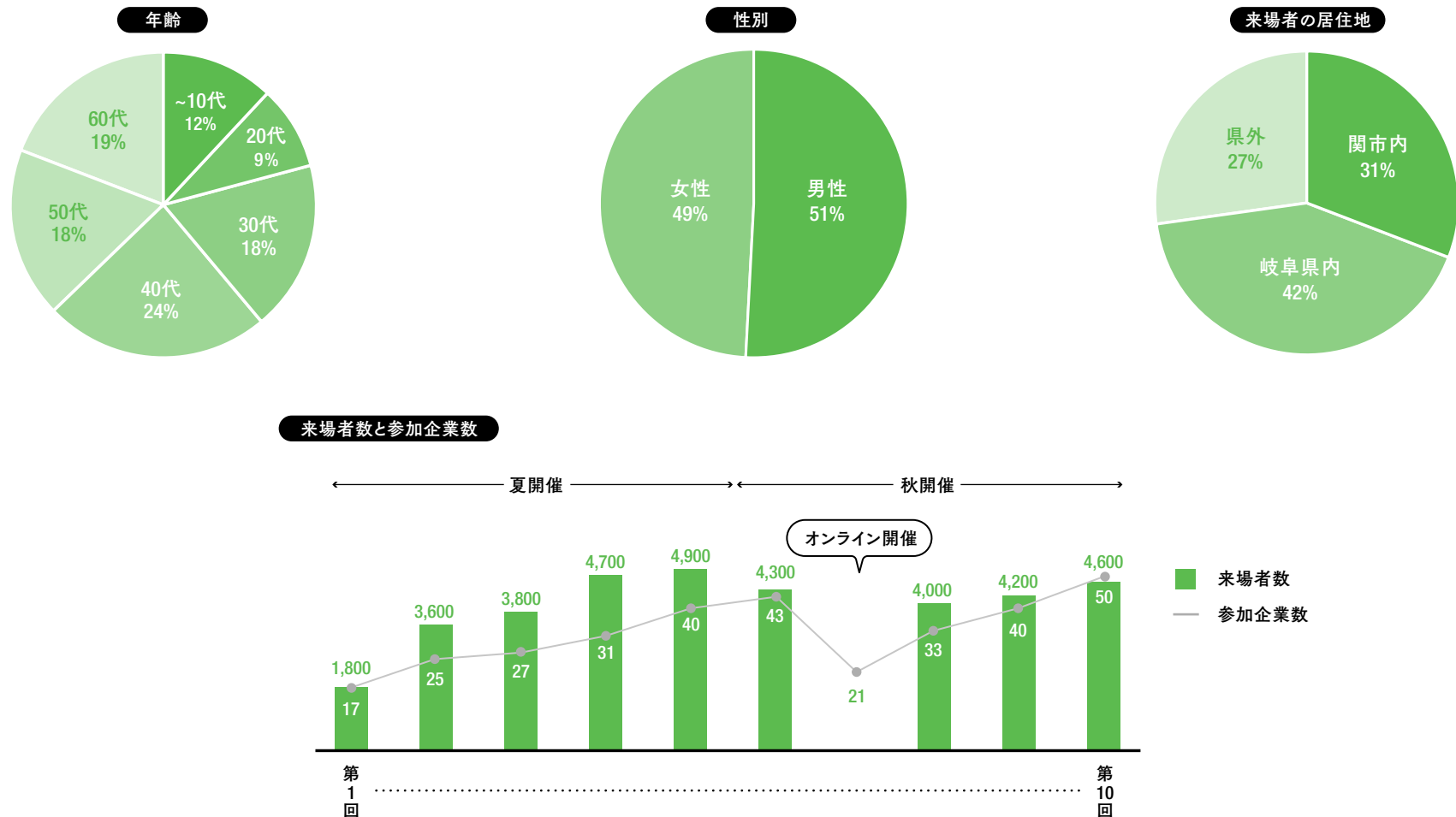
〔Facebook〕



06

データから見る関の工場参観日(2023)

2023年に開催した第10回関の工場参観日では、過去最多の50企業が参加。来場者数は4,600人と、秋開催としては過去最高となりました。来場者の男女比はほぼ半々で、年齢層はそれぞれの年代に分布していますが、今後は20~40代の若い世代の来場者数増加を目指しアプローチを図ります。来場者の居住地は2023年に初めて岐阜県内(関市以外)が関市内を上回り、県外からの来場者割合も過去最高となりました。リアル・オンラインなど多様な方法での広報により、市外での認知が広がっている傾向がみられます。



07

参加事業所向けQ&A

関の工場参観日に初めて参加する事業者向けに、よくある質問をまとめました。
工場見学の参考にしてください！

Q1 「関の工場参観日」の参加のメリットはなんですか？

VISION MAPに書いてあることのほかに、よく聞く声として
以下があげられます。

- 社員の会社への想いが強くなった
- 社員が会社のことを説明できるようになった
- 工場内を見られることで整理整頓がされる
- 普段関わることのない他社や異業種との横のつながりができる
- 新しい人材を採用できた

Q2 工場開放やワークショップをやったことがなくて不安です。

参加事業者向けに全3回程度の勉強会を
実施する予定です。

勉強会では、工場参観日の概要を伝えるだけでなく、これまで何度も工場見学やワークショップをやってきたベテラン企業から直接話を聞いたリ、相談することもできます。また随時、実行委員会や事務局（市役所）が疑問にお答えします。

Q3 会期中はずっと工場を開放しなければならないですか？ 見せられるエリアも少ないです。

参加する日数や時間はそれぞれの企業で
決定していただけます。

平日（木・金）だけや1日だけでも大丈夫です。またワークショップのみでも参加できます。工場見学は、見せられる場所だけを見てもらえば大丈夫です。見せたくない、入ってほしくないエリアを示すサインなどもお配りします。

Q4 工場がなくても参加できるでしょうか？

飲食店や観光施設など、工場を持たないけれども
工場参観日に参加したいという企業やお店は、
パートナーとして関わっていただけます。

詳しくは関の工場参観日実行委員会までお問い合わせください。

参加企業の声

工場参観日の参加は、企業にとって たくさんのメリットがあります

社員のプライド向上につながればと思い、参加を決めました。始めは準備に社員を巻き込みづらかったのですが、声をかけるとさまざまな部署の社員が協力してくれました。会社説明のために、自社のことを調べる中で、改めて特徴や強みを知ることができたと思います。当日はお子さんも来ていただき、リピーターになってくれています。1年目は組織的に動いていなかったのですが、一度やるとよりよくするアイデアが出てきて、2年目からは社内で行実委員会を結成しました。参加して感じるのは“プラスしかない”ということ。工場参観日実行委員会のみなさんも企画や準備など熱心に取り組んでいて刺激を受けています。

一般の方に自分たちの仕事を 知ってもらえる貴重な機会です

参加企業の募集のために行われる説明会とプレ工場見学で刺激を受け、参加を決めました。ニッチな業界ですが、工場参観日を通じて初めてこういった仕事があるということを知っていただき、評価してもらえることを嬉しく感じています。社員は前向きに協力してくれて、本番前には練習として社員の家族に向けて工場見学も実施しました。また、勘や経験で仕事をしている部分もあったのですが、自分の仕事を論理的に説明できるようになり、業務の理解も深まりました。もちろん、工場もきれいになりアンケートでも褒めていただきました。会期中は他社の見学にも行かせていただき、刺激を受けたので、次はよりブラッシュアップしていきたいです。

普段の業務を見てもらうことで、 仕事に対する姿勢が高まりました

イベント自体は以前から知っていて一步踏み出せずにいたのですが、工場参観日のトークイベント「工場夜話」の観覧をきっかけに縁ができて、参加を決めました。普段自分たちがやっている仕事でも、説明や見学をしてもらうとなると背筋が伸びます。より業務に責任感が生まれたと感じています。当初準備は一人で進めていましたが、社内から「みんなでやるべきだ」という声が上がって、2年目は自主的にグループが結成されました。工場参観日では普段は関わる事があまりない企業さんとも交流できたり、参加企業向けの勉強会では、広報などのさまざまなノウハウを教えていただけて、学ぶことが多いです。

株式会社セキテック

2回目 生産用機械

横山 弘美さん



株式会社 グラベル・クリーン

2回目 産業用機械

田口 順也さん



三誠紙工株式会社

2回目 紙器

山内 桂子さん



08

年間スケジュール(予定)

4月

参加事業所申し込み開始

5月

参加事業所申し込み〆切

6月

参加事業所決定

7月

第二回説明会・勉強会
工場紹介のための取材

8月

ガイドブック原稿作成

工場見学
ワークショップ時間
内容決定

9月

第二回説明会・勉強会
ポスター・チラシ配布

10月

ガイドブック配布
工場見学・ワークショップ予約受付開始
第三回説明会・勉強会

11月

関の工場参観日会期

12月

報告会

取材の様子 /



勉強会の様子 /



報告会の様子 /

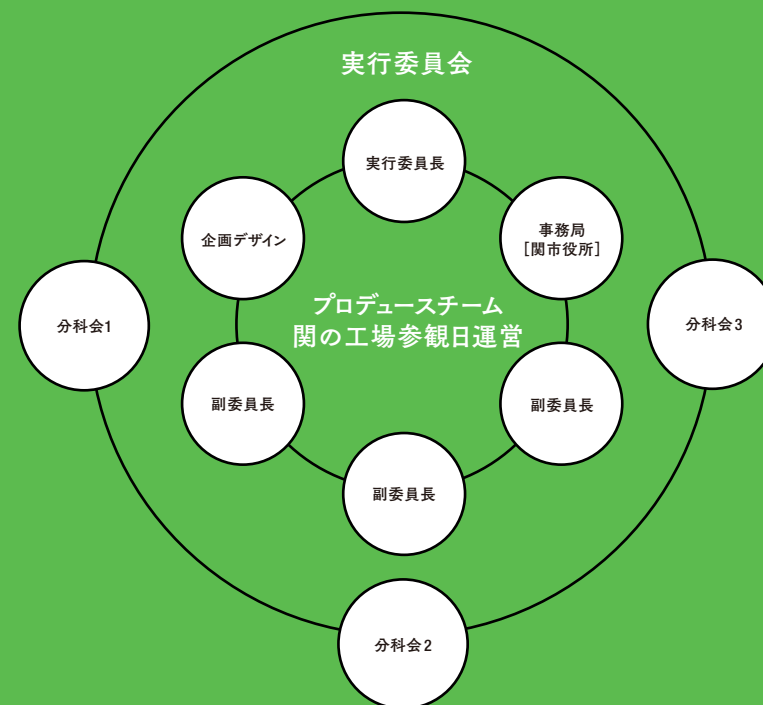


09

関の工場参観日 実行委員会 組織図



実行委員会組織図



工場が主体の組織

参加事業所の有志や市役所などが参加する「関の工場参観日実行委員会」が企画や運営の中心を担っています。

1～2ヶ月に1度開催される実行委員会では、企画の方向性や具体的な事業について、参加事業者や市役所職員などがそれぞれフラットな立場で知恵を出し合い、意見を交わしながら、イベントの実現を目指します。

